

講演 講師

浜岡政好氏

Masayoshi Hamaoka 佛教大学 名誉教授

吹田市との関わりは、介護保険制度ができた平成12年（2000年）から。18年間、延べ40人ほどの職員とともに、1期から7期までの計画策定・推進に携わっていただき、吹田市の高齢者福祉推進にお力添えをいただきました。

★ご本人よりひとこと

只今、後期高齢者一年生です。当事者として高齢期のいろいろな課題が、まさに「我がこと、まるごと」になりました。住み慣れた地域で最期まで暮らしつづけたいですね。ご一緒に知恵をしばりましょう。

リレートーク①「みんな生きがいがづくり！」

樋口敬子氏

Keiko Higuchi 吹田市高齢クラブ連合会事務局長

高齢クラブでは、おおむね60歳以上の仲間が集まって、生きがいがづくりや健康づくりに取り組むとともに、社会奉仕活動として、ひとり暮らし高齢者等を訪問する友愛訪問活動等にも取り組んでいます。会員数は約14,000人です。高齢クラブの電話番号はコチラ！（06-6170-5039）

また、高齢者生きがい活動センターの指定管理も行っており、趣味を共有する仲間づくりや生きがいがづくりなどの講座を行うとともに、それらに取り組む皆さんの活動を応援しています。



★ご本人よりひとこと

これからは高齢者も介護予防や生きがいがづくりに取り組んで、いつまでも元気に暮らせるようにすることが大切です。

我々世代が75歳を超える頃には、Twitterで生きがいがづくりの仲間を募る時代が来るかも！？

リレートーク②「ずっと元気に地域活動！」

矢上敬子氏

Keiko Yagami 吹田市ボランティア連絡会 会長

吹田市ボランティア連絡会は、吹田市社会福祉協議会ボランティアセンターに登録しているボランティアグループが任意で集まり、市内のボランティア活動がより活発になるよう仲間の輪を広げています。

『広めよう・深めよう・ボランティア活動』をテーマに、高齢者障がい者・子供から青少年を対象に、五つの「あい」

ふれあい・学びあい・育ちあい・支えあい・悩みの分かちあいをもって活動。現在、29グループで約1,000人が加入しています。

吹田市ボランティアセンターの電話番号はコチラ！（06-6339-1210）



★ご本人よりひとこと

ボランティアがまちのちょっとした困りごとが解決できると住みやすいまちになり、ボランティアに参加することで元気にいきいき暮らせるようになります。ボランティア、始めてみませんか？

明日、5月27日（日）午前10時から、吹田市役所駐車場にて、第20回吹田ボランティアフェスティバルを開催します。皆さま、ぜひお越しください！



リレートーク③「事業者と地域も連携を！」

益田洋平氏

Yohei Masuda

吹田市介護保険事業者連絡会 前会長

吹田市立亥の子谷デイサービスセンター 管理者

吹田市介護保険事業者連絡会は、介護保険制度が開始された平成12年（2000年）に設立され、以来、300以上の事業者が活動しています。

活動目的は、市内に事業所を置く介護保険事業者間の相互協力と連携により、サービスの質の向上を図ることです。

研修事業、毎年11月開催の介護フェア、情報交換、市民への広報活動等を行っています。



事業者連絡会の活動ブログはコチラ

★ご本人よりひとこと

吹田健やか年輪プランが広く周知され、市民の一人ひとりの暮らしが豊かになることを願っています。そのためには、吹田市、介護事業者や関係機関、市民の皆さまとともに、このプランを「育てる」ことが大切だと思っています。



リレートーク④「家族介護者へも支援を！」

岩本和宏氏

Kazuhiro Iwamoto

吹田コスモスの会（認知症家族の会）会長

平成2年（1990年）に、認知症の家族を介護する人が集まって「吹田コスモスの会」を結成しました。当事者同士、日頃言えない苦しみや悩みを打ち明けたり、介護についての意見交換を行ったり、認知症や福祉制度などの学習会をしたりしています。



★ご本人よりひとこと

認知症になっても安心して暮らせるように…今、介護真っ最中の家族、かつて介護をしていた家族、いろいろな立場の人が集まっています。ひとりで悩む前に、一度お話してみませんか？

リレートーク⑤「自分ごととして情報を！」

坂手裕子氏

Hiroko Sakate

吹田市高齢者保健福祉計画・介護保険事業計画推進委員会 市民委員

「高齢福祉を考える北摂ネットワーク」。豊中、茨木、大阪のメンバーと情報を共有し、自分たちが終末期まで安心して暮らせるように、今起きている問題をテーマに、専門の方を呼び、勉強中です。「吹田朗読パフォーマーの会」で市内小学校に、読みつたえ朗読をしています。

★ご本人よりひとこと

NPO 法人摂津まるごとプロジェクトとして、摂津市の「つどい場事業」を受託。歩いて行けるところに、“安心安全で信頼できる人に会える場所がある”と、いいなと最近つくづく思います。



トークディスカッション
聞き手兼コメンテーター

石倉康次氏

Yasuji Ishikura

立命館大学 産業社会学部 特別任用教授

第7期年輪プランの策定からお力添えをいただいておりますが、以前にも本市の調査に関わっていただいたり、出身地と吹田市が似ていたり、つながりはそこかしこに…。「ゴールドプラン」の頃から高齢者福祉に携わっておられます。

★ご本人よりひとこと

住み慣れた街で生涯住み続けられるようにするということは、市民と行政と医療・福祉の専門機関の協力が不可欠です。吹田市はそのモデルになりうると期待しています。

舟津 謙一

Kennichi Funatsu 吹田市健康医療審議監

平成22年（2010年）に厚生労働省に入省しました。厚生労働省医政局、労働基準局、保険局などにおいて医療、労働、国民健康保険などに携わったのち、平成29年（2017年）4月に吹田市に出向し、現在に至ります。吹田市では健康・医療のまちづくりや地域医療の推進を行っています。



★本人よりひとこと

吹田市に来て1年が経ちました。2025年まであと数年となり、地域医療の推進が大きな課題です。吹田市内に数多くある医療資源の活用が問題解決の鍵です。

後藤 仁

Hitoshi Goto 吹田市福祉部長

福祉のための予算は、市の予算の約半分を占め、600億円を超えています。高齢者、障がいのある人、地域福祉、生活福祉…200を超える事業を行っているのが、福祉部です。

★本人よりひとこと

18年前、介護保険制度開始にも関わりました。それから制度も大きく変わってきましたが、制度をいかに存続させられるかがこれからの課題です。

